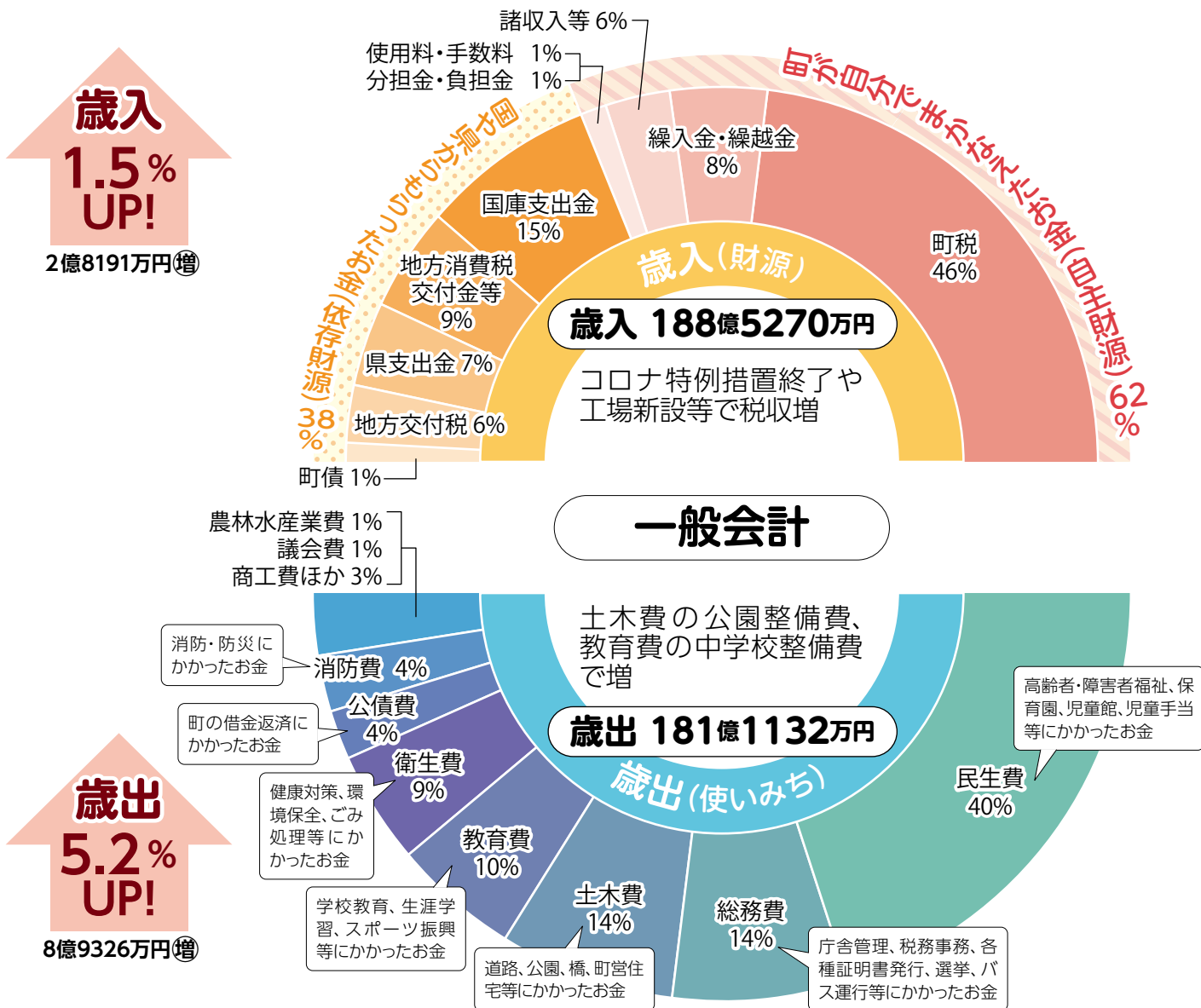


令和4年度 一般会計決算

令和4年度、住民の皆さんの税金がどのように使われたか、来年度の予算編成に生かせるよう徹底審査しました。



令和4年度
一般会計決算
町民1人あたり
いくら使った?
※令和4年度末人口
50,233人から算出

1人あたり
360,546円
使いました

総務費 52,318円 2,407円DOWN ↓	民生費 144,139円 2,536円UP ↑	教育費 37,365円 3,300円UP ↑	土木費 50,032円 11,191円UP ↑
衛生費 31,150円 499円UP ↑	公債費 15,852円 846円UP ↑	消防費 12,568円 143円DOWN ↓	農林水産業費 3,889円 29円DOWN ↓
議会費 2,418円 16円UP ↑	商工費ほか 10,815円 2,919円UP ↑		

賛否討論

※要約してあります

定例会最終日に、令和4年度一般会計決算の内容について、6会派が賛成・反対の討論を行いました。その主な内容を紹介します。



賛成

**第6次総合計画の実現を
目指し各事業を推進**

親和会 山下享司議員

プライマリーバランスは12億8378万円余の黒字で、町債発行に頼らない収支等の収支によって賄われたことは評価する。

第6次総合計画の実現を目指し、各事業を推進するとともに、国の「経済財政運営と改革の基本方針2021」で示されている新たな行政課題への対応として、テレワーク用パソコンの導入、子育て支援システムの導入、行政手続きのオンライン化等「デジタル化の加速」に、令和4年4月から新設されたDX推進課の取り組みは評価する。今後も住民福祉の向上、安全安心を要望して賛成討論とする。



賛成

保育士の退職者の増加が目立っている。保育士の増員を望む。

庶民倶楽部 山田眞悟議員

令和4年度決算は、予想したこともない最高額となった。しかし、これまでの投資効果の乏しい財政運用の結果、町の発展が伸び悩み硬直化傾向が続いている。新町長、町民の血税は町民のために有効に使うことに「アップデート」。

保育士の労働環境と労働条件の改善が望まれる。「風呂敷残業」「段ボール箱で持ち帰り残業」の慣習が未だに続いており、労働環境に矛盾を感じて退職者が増加している。また、保育士配置基準は昭和23年以来根本的には、改定されていない。保育現場では保育士不足を訴えている。保育士の増員を望み、賛成討論とする。



賛成

**迅速な大雨による土砂災害復興
対応等を評価する。**

清流会 三浦雄二議員

令和4年度一般会計決算は、諸事業に対応する中で形式収支（歳入歳出差引額）7億4137万円余の黒字である。前年度に比べ増加となった主な科目は7月に発生した大雨による土砂災害復興対応による災害復旧費皆増、中学校施設整備費の教育費増等である。

翌年度への繰越財源の主な内容は、於大公園再整備事業、介護施設整備事業、小中学校施設整備事業であり、新たな事業も限られた財源で最大の事業展開が行われていると判断し、適正かつ効率的に執行されていると認められるため、賛成討論とする。



賛成

自主財源の根幹である町税の増加は、今後の明るいきざしであり十分評価できる。

町民ファーストの会 長坂知泰議員

本決算での特筆すべき点は、歳入全体の45.6%を占める町税の増加である。内訳では、町民税は、1.8%増加し新型コロナ感染症の影響が徐々に薄らぎ、個人所得や企業収益の回復傾向を示し、また工場新築等により固定資産税も5.8%増加と堅調に推移し、町税全体では85億9572万円の3.9%増加。これにより歳入に占める自主財源の割合は前年度比1.1ポイント増加し61.8%となり、自主財源の根幹をなす税収確保が、本町の安定的な行政運営の優先的課題との認識に立てば、十分評価でき賛成討論とする。



賛成

**アフターコロナの住民の健康や
生活への的確な支援の実施を**

公明党東浦 秋葉富士子議員

令和4年度の主な施策として「コミュニティソーシャルワーカー増員の配置事業」、「子育て支援システム導入事業」、「交通安全対策事業」、「東浦町産業まつり開催事業」、「行政バス運行事業」等が挙げられる。これらの事業の中には、公明党東浦が要望、推進してきたものもあり、評価する。今後は、新型コロナ感染症や物価高騰で打撃を受けた住民の、健康や生活への的確な支援の実施、また、公共施設再配置計画の取り組みは、住民との粘り強い合意形成を図りながら、本町の長期的な展望に立った責任ある推進をお願いして、賛成討論とする。



反対

**物価高騰の影響がある中、
税金の使い方に疑義あり**

日本共産党ひがしうら 杉下久仁子議員

物価高騰の影響が大きい年であり、町民への支援が充実し、住み続けたいくなるまちとして、展望の見える執行状況が重点と考えた。

コロナ禍や物価高騰の影響を受ける町民への支援では「生活応援給付金」、「水道基本料金減免」等の速やかな実施で効果をあげた。

しかし、税金の使い方として疑義のある新庁舎建設基金積立金等の積み立てや、実質は固定資産税減税の企業立地交付金を、1社に対し1億1923万円交付がある。

町民・事業者への支援をより充実させる必要があったと考え、認定に反対とする。

本会議で質疑があったもののうち、主なものを紹介します。

まちに にぎわいを 取り戻す

国庫補助金

コロナ対応地方創生臨時交付金 3億7932万円をどう活かしたか？



▲「サンギョウ魅力人」のパネル展

Q 予算2倍の産業まつり新企画の評価は
3年ぶりの産業まつりは交付金を使い、例年の2倍の予算規模となった。

Q 産業まつり推進協議会負担金の内訳は。

A 4年度の産業まつりは、企画運営を事業者に委託したため、2487万3670円の全額が委託料に充てられている。

委託料の内訳は、企画費1210万円、会場設営費615万円、運営管理費322万円、宣伝広告費53万円、その他経費58万円。

Q 新たな生活様式に対応した催事と、町内企業が持続的発展かつ将来的な経済効果を高めるために打ち出した新企画の評価は。

A 当初目標はおおむね達成できた。

「サンギョウ魅力人」のパネル展は、「地元企業を知ることができた」、「同世代の人が頑張っていて魅力的に感じた」等好意的な回答が多かった。

パネル展参加事業者からも「会社の魅力が伝えられた」等の意見が多く、一部事業者では新規事業立ち上げのきっかけになった。副産物である「サンギョウ魅力人」の冊子もルートで活用されている。一方「レアウト変更で分かりづらくなった」、「ブースの数が減り寂しくなった」との意見もあり、課題も残った。

「コロナや物価高騰等への支援事業」支援事業の効果や反省点は。

Q 支援事業の効果や反省点は。

A 学校施設環境改善交付金、生活応援給付金をはじめ13事業を実施した。トイレを改修し、公共施設にコロナ対策を講じることができた。また、水道基本料金減免等の支援を、速やかに町民や事業者に行き渡らせることができた。

一方で、キャッシュレス決済ポイント還元事業については、経済効果は目標を上回ったが、決済設備の補助申請件数は2件と目標を下回る等、継続的な支援につなげにくい結果

となった。今後は社会状況を考慮し、バランスよく支援していきたい。

「コロナ対応 地方創生臨時交付金以外 ふるさと納税」

ふるさと納税

個人からのふるさと納税寄附金4億2579万2千円は、寄付金全体の99.4%を占めるが、前年度比約7900万円約16%減少した。

Q 減少した要因、課題と対策は。

A 要因は、本町の返礼品の主力である家具の申込み件数が減少したため。課題は、家具は頻繁に買い換えられないため、リピーターが獲得しづらいことである。そのため、効果的なPR等を検討し、新規の寄付者を増やすために努力する。

Q 減少による使途への影響は。

A 寄付が減少したことで事業が実施できないことはない。



■学校給食センター調理業務

学校給食業務の効率化を図るため、令和4年4月から、町内の小、中学校の給食の調理と付随業務（配缶や食器等の洗浄・消毒、配送回収等）の民間委託を実施している。

Q 学校給食センター調理業務等委託の調理員、配送員の内訳と職員の入替わりは。

A 委託開始当初は、責任者を含む調理員44人、事務員1人、配送運転手9人の合計54人でスタートした。年度内に調理員が2人増、4人減、配送運転手が1人増、1人減があった。

Q 調理員の2人減による給食提供への影響は。



A 委託開始当初は、慣れないこともあり混乱することを想定し、委託業者が多めに採用していたため、特に影響はなかった。

Q 給食の残渣^{ざんぞ}の処理費用、過去5年間の残菜率^{ざんざい}の推移は。

A 年間116万4800円であった。残菜率は、平成30年度0.9%、令和元年度1.3%、2年度3%、3年度3.1%、4年度4.1%であった。

*1…食べ残し
*2…出席した人数分の学校給食の提供量に対する、食べられずに残された量の割合。

Q 委託開始と残菜率の関係は。

A さまざまな事情があり残菜率の増加と委託開始は関係ないと考えている。

令和元年度から2年度では、コロナでおかずのやり取りを控えたり、おかわりを禁止する期間があったり等、目に見えて残食が増えた。3年度では、学級閉鎖が増え、4年度はさらに増加した。急な学級閉鎖が残食の増加につながっていると考える。また「食べ残さない」指導が虐待に繋がるのではないか、という社会的な風潮があり、全部食べようという指導が教育現場でしづらくなってきたとも聞いている。

■役場当直室改修

Q 当直室改修工事の内容は。

A 既設の当直室と隣接していた倉庫を解体し、事務室のほか新たに待合室、寝室、会議室を設けた。

これまで、閉庁日に来庁された方が、座る場所もなく、手続きの間立ったまま待たせてしまい、空調もない状況であったが、これらを改善した。



▲改修された当直室

■ジャンボタニシ駆除補助金の評価は

水稲に被害を与えるジャンボタニシの生息域拡大と被害を防止し、水稲の生産振興を図るために薬剤購入費の補助を令和4年4月から実施。

Q 予算150万円が、決算で5万6100円になった理由は。

A 予算額は過去3カ年の薬剤販売数から予測・算定した。被害が予想ほど増加しなかったこと、前年までに薬剤をまとめ買っていた方がい

たこと等で、申請が少なかったと分析している。

Q ジャンボタニシは減ったのか、現状把握は。

A もともと被害があった場所は、海側の水田地帯であり、耕作している農家の方の中には減ったという声もあるが、多くの方からは昨年と変わらない、少し増えた等の話を聞いている。



■勤労福祉会館の稼働率

Q 勤労福祉会館の和室3、4の不稼働を改善する工夫はないか。

A 当該和室は比較的小さな部屋で、茶室という特別な用途となる等利用につなげることができない。今後は、利用者を意識したPR等工夫したい。



▲勤労福祉会館(和室3)